

「親子で学ぶ 防災・減災ピクニック 2025」を実施

～必ず来る、その日のために 家族の防災力を高めて、将来に備えよう～

日本損害保険協会中部支部（委員長：川杉 朋弘・東京海上日動火災保険株式会社常務執行役員）は、5 月 31 日（土）に名古屋大学の 福和 伸夫 名誉教授をナビゲーターに迎え、同大学内で「親子で学ぶ 防災・減災ピクニック」を実施しました。本イベントは親子で防災・減災を学ぶもので、今年で 8 回目です。今年は過去最高の 93 組 243 名（倍率約 4.7 倍）の応募があり人気企画となっています。

当日は、名古屋大学博物館で①地球科学を学ぶ「名古屋大学博物館ツアー」、②同大学内にある地層や遺跡などを巡る「名古屋大学東山キャンパスツアー」、③減災館で学習装置を用いて災害の危険性を学ぶ「減災館見学ミニツアー」、④減災館で「福和教授による揺れ方の実験」の 4 つのプログラムを実施しました。

「名古屋大学博物館ツアー」では大学生や学芸員が博物館の展示物について解説し、参加者は木曾馬やマッコウクジラの骨格標本、エビの化石などの展示物を見て、実際に触れて、質問も出ていました。

「東山キャンパスツアー」では、小雨の降る時間帯もありましたが、高低差約 40m の東山キャンパスの地形を感じながら歩き、地層がむき出しになっている八事層を見て触ってチャートという岩石を発見していました。また、福和教授と大学生が猿投窯という陶磁器を焼くために用いられた窯跡の解説を行う等、防災の基礎である地学を学びました。

「減災館見学ミニツアー」では、減災館の地震再現装置を見学し、プロジェクションマッピングで地域の浸水の状況を地図に投影したものを見るなど、珍しい設備や学習装置を見学・体験しました。

「福和教授による揺れ方の実験」では、プリンを使って地盤や地形による揺れの違いを見たり、ココアと小麦粉を使って断層のでき方を学んだり、実験キットを使って建物の構造による揺れの違いを学びました。

実施後の参加者アンケートでは、「地震への備えのきっかけになり参加して良かった。」「帰宅後、子どもが家族にプリンの実験を指南したり学校で発表したりしていて、興味を持ってくれて嬉しかった。」「減災館の展示などで地震の怖さをリアルに体験できた。」などの感想をいただきました。

当支部では、南海トラフ巨大地震に備えて、今後も家族や地域の防災力を高める取組みを進めます。



博物館ツアーの様子①



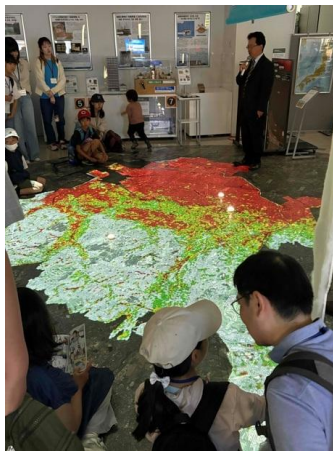
博物館ツアーの様子②



キャンパスツアーの様子①



キャンパスツアーの様子②



減災館ツアーの様子



プリンを使った実験の様子



ココアを使った実験の様子



揺れの実験の様子